

無政府主義者

1904年、ディアスは先が見えたかのように初めて副大統領を任命した。しかし、それと引き換えに大統領の任期を四年から六年に延長した。ディアスへの最初の深刻な反抗は1903年に始まっていた。始めたのは若い無政府主義者フロレス・マゴン兄弟、リカルド、エンリケ、ヘススの三人であった。1903年2月5日憲法記念日、新しい雑誌「リヘネラシオン(再生)」の建物のバルコニーにから「憲法は死んだ」と書いた垂れ幕を吊るした。それ以来ディアスは執拗に彼らを追い詰め、牢獄に投げ込み、終にはアメリカに追放した。しかし新しい改革の種はしっかりと植えられていた。²²

リカルド・フロレス・マゴンはポルフィリオ・ディアスと同じオアハカ出身で、インディアンの父とメスティサの母との間に1873か4年に生まれた。兄ヘススはメキシコ市で弁護士として成功する。三四歳年下の弟エンリケはリカルドの強い影響を受け、固い信念に従って兄と生涯を共にした。フロレス・マゴン兄弟は最初から過激であったわけではなく、ベニート・フアレスの偉業を称え、自由主義者に感銘を受け、当初はメキシコの政治悪是正と1857年憲法の復活を唱えていた。1900年8月7日、リカルドとヘスス・フロレス・マゴン兄弟はメキシコ法科大学の法律評論紙「リヘネラシオン」を発行した。ヘススはこの大学で学位を得たが、リカルドとエンリケは共に中退した。²³

1900年8月30日、サン・ルイス・ポトシのカミロ・アリアガが「リベラル党への招待」と題したマニフェストを発表、全国各地でクラブを組織し、翌年2月に同市で全国大会開催を呼びかけた。アリアガはそこまで想定していなかったが、これにより独裁者に対する抗争が一挙に顕在化することになった。全国大会までには50近くのクラブが結成された。リカルド・フロレス・マゴンもこれに呼応し、12月31日、リヘネラシオンを政治機関紙としてデビューさせた。²⁴ アリアガは銀山を所有する裕福な家族の子弟で、ディアスに不満を抱く上流階級の代弁者であった。アリアガはディアスがカトリック教会に特典を与えつつある事に不満を抱き、自由主義者会議を提唱した。1901年2月、会議場の前の通りを政府軍が威嚇行進をした。教会を槍玉に挙げることに危険は伴わなかったが、ディアスが相手となるとそうはいかなかった。リカルドはディアス政府を泥棒の巣窟と呼び、武力抗争のみがディアスを転覆出来ると主張したが、彼に同調する者は殆どいなかった。リヘネラシオンは戦闘的ニュアンスを強めていった。1901年5月22日、リカルドとヘススはディアスを侮辱した廉で逮捕され、悪名高いベレンの牢獄で十二ヶ月の禁固刑を言い渡された。翌年4月30日、釈放されると兄ヘススは闘争的な態度を改め、代わりに弟エンリケが加わった。囚人の生気を奪う地下牢は自分の手も見えないほど暗かった。最も恐ろしい事は光が全く無く、ベレンは読み書きが出来ない地獄であった。二度も投獄されたリカルドは過去二十九ヶ月のうち二十二ヶ月をベレンで過ごしていた。これ以上は耐えられそうに無かった。1903年10月、フロレス・マゴン兄弟はアメリカへ

向かった。25

1904年1月、リカルドとエンリケは仲間と共に国境の町ラレドにいた。彼等は皆困窮し、日雇いの雑役をしながら糊口をしのぎ、次の目的地、カミロ・アリアガが移り住んでいたサンアントニオへの路銀を稼いだ。フロレス・マゴン兄弟はこのときラレドでアニセト・ピサニャに出会っている。ピサニャは十年後、メキシコからリオグランデを渡ってテキサスに侵入し、メキシコがアメリカに強奪された領土を回復し、テキサスに住む十八歳以上のアングロの男性を皆殺しにしようとした攻撃隊長の一人である。この「サンディエゴ計画」と呼ばれる越境攻撃作戦には日本人も関わった。マゴン兄弟はこの計画に直接関係は無いが、ピサニャは兄弟の影響を受けた一人である。26

11月5日、アリアガの資金援助を受けてリヘネラシオンは復活し、亡命第一号が出版された。しかしディアスは追跡の手を伸ばし、スパイを放ち、探偵を雇って亡命したリベラルを追いかけた。マゴン兄弟は1905年1月、リヘネラシオンを中断し、アメリカの労働組合の中心で、ヨーロッパから無政府主義者が集まっていたセントルイスへ移動した。リカルドが発行するリヘネラシオンはセンセーションを巻き起こし、購読者を増やしていった。激しい論調と、ディアスの資本主義的搾取の実態を生々しく記述した内容が、組織化が進んだ労働者層に受け、1906年の購読者は二万人に達した。27

1905年の暮れ、リカルドは無政府主義者としてではなく、リベラルとしてメキシコ各地のリベラル・クラブに新聞を通じて、メキシコで何をなすべきかについてアイデアを求めた。リヘネラシオンのスタッフを圧倒するほどの回答が寄せられ、それらを総合して到達したのが1906年7月1日に発表されたメキシコ・リベラル党（PLM）マニフェストであった。PLMマニフェストは、アメリカの労働者に理解と援助を求め、メキシコでの反ディアス勢力拡大のために七十五万部が両国で配布された。フロレス・マゴン兄弟は最初の提唱者であるアリアガを締め出しPLMを独占した。28 リヘネラシオンは党の正式な機関紙となった。新党は政治改革として、大統領の任期を再選なしの四年とし、リベラルが古くから主張してきた教会の財産に対する課税、社会改革として最低賃金の設定、一日八時間労働、児童労働の禁止、インディアンの保護と彼等へ土地の返還を唱えた。29

マニフェストが印刷される一月前、ソノラ州の鉱山町カナネアで大規模なストライキが発生していた。リヘネラシオンはカナネアのストライキを誇大に報道し、ディアスを激しく非難した。ディアスはアメリカにある新聞を容易に沈黙させる事は出来なかった。ディアスとカナネア銅山主グリーンは協力して弾圧の手を強め、フロレス・マゴニスタを追った。フロレス・マゴン兄弟とファン・サラビアはカナダに逃げ、リヘネラシオンの印刷機は地元警察に没収された。1907年の春、PLMは再び場所を変え、今度はロスアンゼルスに結集して活動を開始した。30

アメリカ治安当局の協力を得たディアスはついにリカルドを追い詰めた。リカルドは他の数人と共にロスアンゼルス警察に逮捕された。ディアスのスパイと探偵が提供した状況

証拠をもとに、リカルドはカナネアの争議を扇動した罪に問われ、三年の刑を言い渡されアリゾナの刑務所に入れられた。以後リカルドの抜けたPLM革命計画の実行は、エンリケと野戦隊長プラセディス・ゲレロの手に委ねられる事になった。 31

22. Enrique Krauze, "Mexico, Biography of Power, A History of Modern Mexico, 1910-1996, 1997, P234
23. James A. Sandos, "Rebellion in the Borderlands, Anarchism and the Plan of San Diego, 1904-1923", University of Oklahoma Press, 1992, P3
24. Ibid. P5
25. Ibid. P8
26. Ibid. P8
27. Ibid P10
28. Ibid. P10
29. Benjamin Herber Johnson, "Revolution in Texas, How a Forgotten Rebellion and its Bloody Suppression Tuened Mexicans into Americans", Yale University Press, 2003, P60
30. W. Dirk Raat, "Revoltosos, Mexico's Rebels in the United States, 1903-1923", Texas A&M University Press, 1981, P21
31. James A. Sandos, "Rebellion in the Borderlands, Anarchism and the Plan of San Diego, 1904-1923", University of Oklahoma Press, 1992, P12

[目次へ戻る](#)